

春秋

おしりだって、洗ってほしいー。

戸川純さんの呼びかけが多くの日本人の度肝を抜いたのは、1982年のこと。一般に普及していなかった洗浄機能つきトイレを広くアピールしようとメーカーがしかけたCMだった。あれから30年あまり。日本のトイレは変わった。

▼かなり高級なホテルなのに、洗浄機能がついていなかった。そんなぼやきを、海外旅行や出張帰りの友人から聞くことがある。都内では賃貸マンションの人気を左右する、とも。それほど、日本ではごく当たり前になってきた。若い人が内向きになったと嘆く人がいるけれど、その一因はトイレにある、のかもしれない。

▼国連は6日、2000年の国連サミットが採択した「ミレニアム開発目標」の達成状況について発表した。貧困削減で「最も成功した取り組み」と自賛するなど、世界は望ましい方向に進んでいると希望を抱かせる内容だ。ただ「安全な衛生施設」の整備は目標に届かなかったという。日本は恵まれている、と改めて思う。

▼快適な公共トイレを増やそう。有村治子女性活躍相がそう訴えている。自ら「トイレ大臣と呼んでもらっていい」と語るほどの、熱の入れようだ。望むらくは、日本だけでなく世界中の人々が快適で安全なトイレを使えるようになっていきたい。世界のどこでも、おしりを洗ってくれる仕組みがあるような時代を、思い描く。

2015. 7. 10